福県医発第19号（総）
平成16年4月5日

各医師会長　殿

福岡県医師会
会長　竹嶋康弘

日本医師会定例代議員会（４月２日）

植松治雄日本医師会会長所信表明（全文）

陽春の候　貴職益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、先般開催されました日医代議員会における植松日本医師会長の所信表明（全文）をご参考までにお送り致します。

ご査収下さい。

小郡三井医師会より　　**会長　丸山　泉**

植松治雄日本医師会会長所信表明

植松治雄日本医師会会長所信表明

今、日本はイラクに自衛隊が派遣され、また憲法論議というのがなされようというふうな大きな国の転換の時期を迎えておるのではないかと思っております。

そういう中で行われます医療改革でございますけれども、これはやはりこれからの日本の国、これがどのような姿であるべきかということから考えるべきで、身近な問題だけを取り上げての改革というのは、決して国民の幸せを呼ばないというふうに思っております。私どもはこのような時代に医師会の運営を任されたわけでございまして、その重要性、責任の重さというのは、十分に自覚をしておるところでございます。

昨日、選んでいただきましたキャビネットは各都道府県医師会から、会長先生が自信をもってご推薦をいただきました、有能な即戦力のございます役員会であろうというふうに思っておりますけれども、ただ、残念なことはこのような選挙戦の中で、女性の常任理事その他の役員を求めることができなかったことでございます。

このことにつきましては、私どもも反省はいたしておりますけれども、これから各地医師会において優秀なる女性を登用していただき、現場あるいは会議の中でその能力をさらに高めていただきながら、日本医師会に送り出していただきたいということをお願いをいたしたいと思っております。

こういう重要な時期でございますので、医師会運営というものをどうするかということは、会員のみならず、国民からも見られておるわけでございますので、私といたしましては、医師会の運営というものは極めて透明に、そして医師会の意思決定の過程というものが明らかになり、会員にも見ていただけるような運営をしていく。このことによりまして、会員の信頼を高めることができるのではないかというふうに考えております。

そういうふうな考えの中で、医療保険であるとか、あるいは介護保険であるとか、地域医療であるとか、重要な問題につきましては、以前から主担当常任理事が行っておりましたけれども、これからは主担当理事は当然でございますけれども、チームを組みまして、これに対応させるということにいたしたいと存じまして、既にその準備をしているわけででございます。

そのことによりまして、一人では見落とし、二人でも見過ごすようなことが、三人、四人のチームでやっていくということで相当な確実性が出て来、また、普遍性も見られるのではないかと思っております。

もう一点は、事務局との関係でございますが、事務局には優秀な人材が過去からのノウハウを十分に備えた資質を持っております。これを今まで以上に活用し、時には、政策の決定の場にも発言し得るような

立場にしてやるということは、我々役員にとりましてプラスになると同時に、彼らの励みにもなるのではなかろうかと思っておりますので、このような方針でも進んでまいりたいということでございます。

医師会をこれからいろんなことで運営をし、そして国民医療のために働くわけでございますけれども、昨日来申し上げておりますように、私は社会保障の理念というものと国民皆保険制度というものの堅持というものは柱に据えてまいりたいと考えております。

国民に安全で、質の高い医療を効率的に提供するという、いわゆる医療の提供の体制というものは、一番重要なことでございます。これを行いますためには、私ども医師会会員は生涯教育に励むと同時に、倫理の高揚、自浄作用をさらに進めるというふうなことは当然な問題としてあるのではなかろうかというふうに思っております。

これらの施策については、既に前執行部の中で十分に討議され、それが報告書にまとめられたものもございますけれども、今、残されておりますのは、その実行でございます。この実行の段階におきまして、会員の顔のみを見るということでなく、その後ろにございます国民の皆さま方の考え方、目というものを見ながら、相当厳しい態度をもちまして、会員に語るべきではないかというふうに考えておりますので、代議員の先生方にも十分にご理解をいただいておきたいと思うわけでございます。

一方、この医療提供の中で、現在一番問題となっておりますのは小児医療でございます。ことに小児の救急問題というものは大きな問題となってきております。これは各地で対応をされておりますけれども、地域ごとに見ますと、非常に不十分なところと、ある程度充実したところがあるわけでございますが、私の願いといたしましては、これは全国どこでも安心できるようなシステムを組みたい、そのためには医師の偏在その他ということも考えなければなりませんし、そういうふうな状況の中で、やはり女性医師の問題、勤務医の問題というものも避けて通れない問題ではなかろうかと思っております。

これからの医師会を考えますときに、組織率を上げるということは、非常に大事なことでございますけれども、そのためには、どのようにして若い先生方、勤務医の先生方に医師会というものを理解していただくか。また、医師会に入ったときのメリットだけを論じられておりますけれども、そもそも医師会というのが、どのような仕事をし、世の中でどのようにこれからやっていくかということを十分に理解していただきましたときに、自分たちも医師会に入らなければ、というモチベーションをつくるような、私はＰＲと申しましょうか、情報を発信していくべきではないか、ただ単に自賠責の問題でこんなことをしますよというふうなメリット論だけでは、医師会というものはなかなかに信頼を勤務医にも得られないのではないかというふうに考えております。

そういう状況の中で、医師会運営の中で、今、日医総研の問題がございまして、日医総研が非常に有能であり、その能力を発揮されつつあるということは十分に理解をしておりますけれども、私といたしまし

ては、後ほど質問にもございますけれども、日本医師会の政策を徹底し、それを進めていくのは、執行部の責任でございます。その仕事、これは人数の少ない役員の中で十分なものができない。これに対しまして、具体的ないろんな問題、資料の分析あるいは調査というふうなものを日医総研に委ねるべきであって、問題をすぐ、即日医総研に投げるというのは、私は無責任ではないかと思っております。

ただ、そういうことをいたしますと、執行部といたしますと、なかなかに勉強していかなければならない、辛い立場ではございますけれども、あえて自らをその場におきながら、執行部の責任におきまして、政策、戦略を考えてまいりたいと思っております。

ただ、そのときに代議員の先生方を初め、会員の皆さま方のご支援とご指導がなければならないということは、十分に考えております。そんなことでよろしくお願いを申し上げておきたいというふうに思っております。

まだ、ヨチヨチ歩きでございまして、先生方におめだるいところもあろうかと思いますけれども、昨日もお話し申し上げましたように、私どもは粉骨砕身努力するという気持ちをもっておりますので、ご寛容にしばらく経過を見ながら、ご指導を賜りたいと思っております。

本日、ご審議いただきます事業計画並びに予算案でございますけれども、これは前執行部がおつくりになられたものでございまして、私どもも昨日初めてといいましょうか、手にしたところでございまして、先生方がお持ちの資料以上のものは私どもも持っておりませんので、細かいご説明はしかねるということをお許しいただきながら、但し、この中で会務を運営していきながら、事業のあり方、あるいは財政のあり方を考えまして、ご面倒でございますけれども、８月ごろに補正の事業計画並びに予算をご審議いただける代議員会を開催いたしたいと思っておりますので、その節にはよろしくお願いを申し上げたと思います。

なお、本日宮崎副会長、国会のために少し遅れるということでございますので、遅れておりますことを、これもお許しを願いたいと思います。

簡単でございますけれども、私の考えの一端を述べさせていただきまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。